

取扱説明書

用途

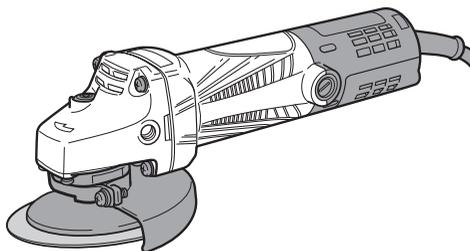
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落とし

日立ディスクサンダ

100 mm **S 10SA3**

125 mm **S 13SA3**

このたびは日立ディスクサンダをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



S 10SA3

電動工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	4
各部の名称	6
標準付属品	6
仕様	7
別売部品	7
別売部品の取付け方	8

はじめに

ご使用前の準備	8
サンディングディスクの 取付け・取りはずし	10
削る	11

使い方

保守・点検	13
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⚠ 警告

- ⑥ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ 保護メガネを使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
 - 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。

警告

- ①6 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ①7 不意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ①8 屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ①9 油断しないで十分注意して作業を行なってください。**
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ②0 損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ②1 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ②2 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。**
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

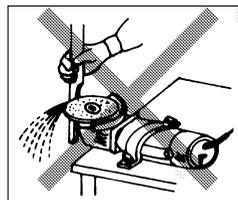
本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ディスクサンダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

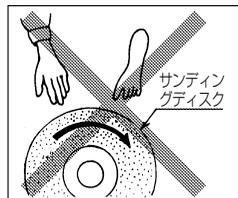
⚠ 警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 必ずアース(接地)してください。
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
(詳細は、8ページの「アース(接地)、漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。)
- ③ ホイルガードは、必ず取付けて使用してください。
 - サンディングディスクが身体に触れる恐れがあり、けがの原因になります。
- ④ 当社指定のラバーパットを使用してください。また、損傷・摩耗したラバーパットは使用しないでください。
 - 破壊の恐れがあります。
- ⑤ サンディングディスクにキズ、欠けなどの異常のあるものは使用しないでください。
- ⑥ FRP材の加工には使用しないでください。
 - 破壊の恐れがあります。
- ⑦ 突起物、角部にサンディングディスクの外周部を当てないでください。
 - 破壊の恐れがあります。
- ⑧ 使用中は、振り回されないよう機体を確実に保持してください。とくに始動時は気をつけてください。サイドハンドルを付属している場合は、サイドハンドルをしっかりと取付けてください。
 - 確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ⑨ 水、研削液などは使用しないでください。
 - 乾式用のため、サンディングディスクの破壊によるけがや感電の恐れがあります。
- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
 - サンディングディスクが破壊したとき、けがの原因になります。
- ⑪ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
 - けがの原因になります。

⑩



⑪



⚠ 警告

- ⑫ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

- 火災ややけどの原因になります。

- ⑬ トイシ、丸のこ刃、チップソーなどは使用しないでください。

- ディスクグラインダや丸のことしては使用できません。けがの原因になります。

- ⑭ サンディングディスクを使用して、切断作業はしないでください。

- サンディングディスクが破壊したとき、けがの原因になります。

- ⑮ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

- けがの原因になります。

- ⑯ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

- そのまま使用していると、けがの原因になります。

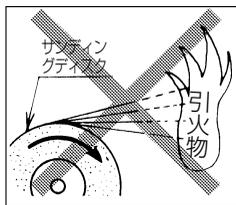
- ⑰ 誤って落としたり、ぶつけたときは、サンディングディスクや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

- 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

- ⑱ 延長コードを使用するときは、アース線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。

- アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。

⑫



⑮



⚠ 注意

- ① 工具類(サンディングディスクなど)や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。

- 確実にしないと、はずれたりし、けがの原因になります。

- ② 試運転を励行してください。

試運転時間は、12ページの「⑦ 試運転を行う」の項をご参照ください。

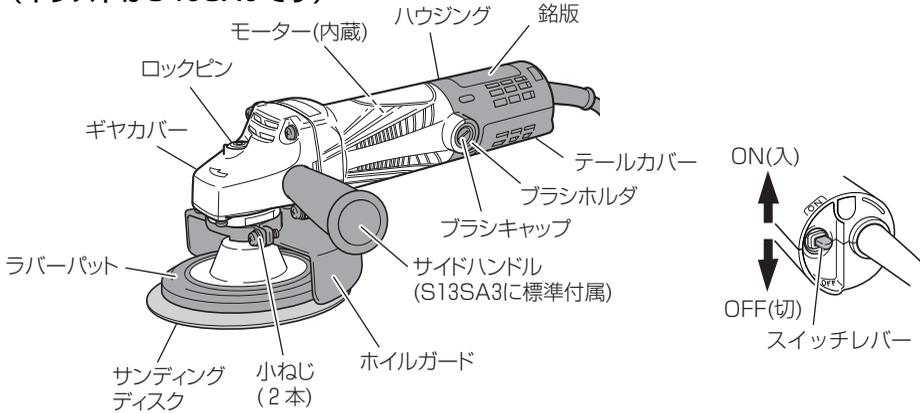
- 試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。

- ③ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。

- 材料や機体などを落としたりしたとき、事故の原因になります。

各部の名称

(イラストはS 13SA3です)



電源プラグ形状

形名(仕様)	S 10SA3 S 13SA3	S 10SA3(E) S 13SA3(E)
電源プラグ	アースクリップ コード 2P電源プラグ	アースクリップ 可倒式 接地極 コード 3P(可倒式)電源プラグ

標準付属品

品名	形名	S 10SA3	S 13SA3
サンディングディスク (粒度P24、P30、P50、 P80、P120 : 各1枚)		5枚	5枚
ラバーパット		1個	1個
スパナ		1個	1個
サイドハンドル		—	1個

仕 様

形 名	S 10SA3	S 13SA3
使用電源	単相交流 50 / 60Hz 共用 電圧 100V	
モーター	単相直巻整流子モーター	
全負荷電流	7.4 A	
消費電力	720 W	
無負荷回転数	12000 min ⁻¹ {回/分}	9000 min ⁻¹ {回/分}
質量(コードを除く)	1.6 kg	1.8 kg
コード	アースクリップ付 3心キャブタイヤケーブル 2.5 m	
振動 3軸合成値 ^{*1}	4.8 m/s ² ^{*2}	4.2 m/s ² ^{*2}

※1：振動 3軸合成値(周波数補正振動加速度実効値の 3軸合成値)については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会]
ウェブサイト：<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>
をご参照ください。

※2：振動 3軸合成値は、EN60745-2-3 規格に基づき測定しています。

別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

詳しくは、お買い求めの販売店、または日立工機の全国販売拠点(裏表紙参照)にお問い合わせください。

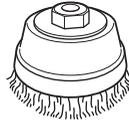
サンディングディスク



研削量が少なく仕上げ面をきれいにしたいとき、塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落としなどに用います。

S 10SA3: 100 mm
S 13SA3: 125 mm

カップワイヤブラシ



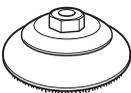
ねじ式

鋳物、構造物、タンク、車体、鉄板石材およびコンクリートなどの表面仕上げ、またはペンキをはがすのにサンディングディスクの代りに用いると有効です。

とくに仕上げ面が平らな場合能率的です。線材破片の飛散が少ない高性能・長寿命タイプです。

S 10SA3: 75 mm
S 13SA3: 90 mm

ベベルワイヤブラシ



ねじ式

カップワイヤブラシと同じ目的に使用されますが、特に凸凹が激しい面や、隅の部分または溝の底などを仕上げる場合に外周部を使用し、能率を上げることができます。

線材破片の飛散が少ない高性能・長寿命タイプです。

S 10SA3: 95 mm
S 13SA3: 120 mm

電動工具用集じん機

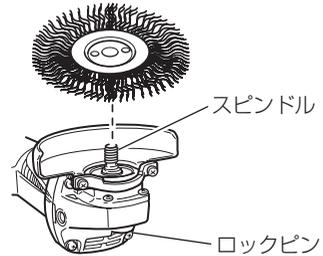
S 10SA3は、電動工具用集じん機に接続して使用することができますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

別売部品の取付け方

● カップワイヤブラシ、ベベルワイヤブラシ(ねじ式)の取付け

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、別売部品の取付け、取はずしの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 別売部品を使用の場合も必ずホイルガードを取付け、保護メガネを使用してください。
- 別売部品の項(P7)に記載された外径を超えるものは使用しないでください。



直接スピンドルにねじ込んでください。付属のサンディングディスク取付け用のホイルワッシャ、ホイルナットは使用しません。

ご使用前の準備

● アース(接地)、漏電しゃ断機の設置

ご使用にさきだち、電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断機(以下、漏電しゃ断機と言います)が設置されていることを確認してください。

⚠ 警告

アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがあるので、絶対にしないでください。

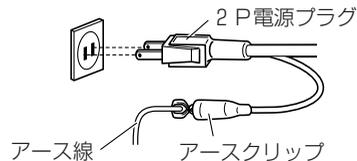
- 注**
- プラグのアースクリップや接地極、アース線は、異常のないことを確認してからご使用ください。

テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、プラグの接地極またはアースクリップと機体の金属外枠との間の導通を確認してください。

- 地中に接地極(アース板、アース棒)を埋め、アース線を接続するなどの設置工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

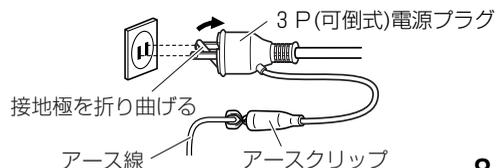
S 10SA3、S 13SA3 をお使いの場合

アースクリップ付2P電源プラグをアースするときは、下図のようにアースクリップをアース線に接続してください。



S 10SA3(E)、S 13SA3(E) をお使いの場合

アースクリップ付3P(可倒式)電源プラグはアース付(3ピン)コンセントに直接さし込むことでアースクリップによるアースは不要です。アース極のない2極コンセントに接続するときは、下図のようにアース極を折り曲げてコンセントにさし込み、アースクリップをアース線に接続してください。



●延長コードを使う場合

- 電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。
- 必ずアース線（接地）できる接地用の1心をもつ3心キャブタイヤケーブルをお使いください。

⚠ 警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm ²)	最大の長さ (m)
1.25	15
2	25
3.5	45

●作業環境の整備・確認

⚠ 警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ 子供を近づけないでください。
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

薄い鋼板などを研削する場合には、作業台の状況によっては研削音が鋼板に反響して大きな騒音が出る場合があります。このような場合には鋼板の下にゴムシートを敷くなどして騒音を出さない配慮が必要です。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

サンディングディスクの取付け・取りはずし

⚠ 警告

サンディングディスクの取付け、取りはずしの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 注意

ワッシャナットは、必ず付属のスパナを使って十分に締付けてください。

取付け

1 S 10SA3、S 10SA3(E)をお使いの場合

- スピンドルを上に向け、ワッシャ、ラバーパット、サンディングディスクの順に取付けます。(右図参照)

S 13SA3、S 13SA3(E)をお使いの場合

- スピンドルを上に向け、ラバーパット、サンディングディスクの順に取付けます。(右下図参照)

2 ワッシャナットを取付ける

- サンディングディスクの上からワッシャナットの凸部をサンディングディスク側にして、スピンドルに取付けます。

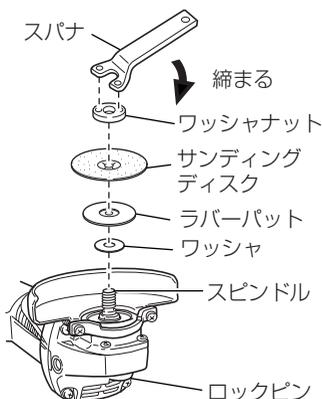
3 ワッシャナットを締付ける

- ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイールナットを十分に締付けます。

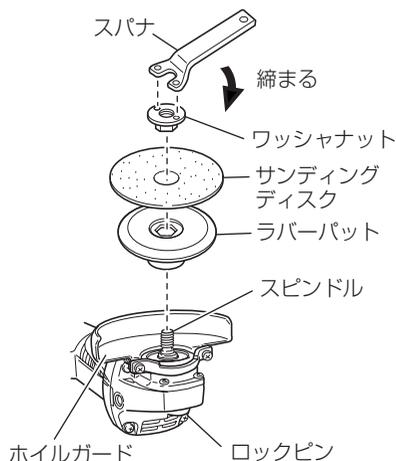
取りはずし

- サンディングディスクを取りはずす場合は、①～④の取付けと逆の手順に行います。

S 10SA3、S 10SA3(E)をお使いの場合



S 13SA3、S 13SA3(E)をお使いの場合



注 ロックピンを押してはなしたときに、確実に戻ることを確認してください。

⚠ 警告

●ご使用前に次のことを確認してください。①～⑤項については、確認の際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

誤ってスイッチを入れてしまうと、けがの原因になります。

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 機体に衝撃をかけるとサンディングディスクにヒビが入ったり、割れたりする恐れがあるので、取扱いには十分注意してください。
- 万一機体を誤ってぶつけたり、落としたりしたときは、必ずサンディングディスクのヒビや割れ、機体に破損などがないことを十分確認してください。
- サンディングディスクは被研削面に強く押しつけないでください。
破壊の恐れがあります。
- 突起物・角部にサンディングディスクの外周部を当てないでください。
破壊の恐れがあります。

⚠ 注意

●機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部分が加工材などに接触していないことを確認してください。

接触していることを知らずにスイッチを入れると、サンディングディスクが破壊することがあり、けがの原因になります。

- 新しいサンディングディスクを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、サンディングディスクの露出部から必ず一時身体を避けてください。

1 スイッチが切れていることを確認する

2 ホイルガードを確認する

- ホイルガードはサンディングディスクが破壊した場合に使用者を保護する防護壁ですから、必ず取付けてください。
- ホイルガードは小ねじ(2本)を少しゆるめることにより任意の角度に動かすことができます。作業に適した角度にセットしてご使用ください。
調整後は小ねじ(2本)を確実に締付けてください。

3 ロックピンを確認する

- ロックピンを押して、はなしたとき確実に戻ることを確認してください。

4 サンディングディスクを確認する

- サンディングディスクは正規のものか、またヒビや割れがないか調べてください。
- サンディングディスクは正規の状態に取付けられ、十分締付けられているか点検してください。
(P10「サンディングディスクの取付け・取りはずし」参照)

5

電源・コンセントを確認する

- 必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。
また、直流電源、エンジン発電機では使用しないでください
- コンセントがガタついていたり、電源プラグが抜け落ちてしまうときは、接続しないでください。
そのまま使用すると危険です。

注

- モーターが回転中には、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。
- サンディングディスクは材料に強く押しつけないでください。機体自身の重さで研削できますから材料に軽くあてる程度に保持してください。
- 強く押しつけるとサンディングディスクが破壊する恐れがあります。また、回転が落ち仕上げ面がきたなくなります。過負荷になってモーターが故障する原因になります。

6

電源プラグをコンセントにさし込む

7

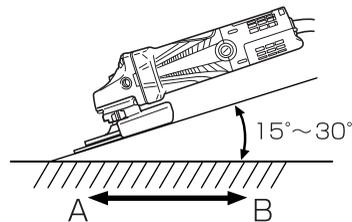
試運転を行う

- サンディングディスクにヒビや割れがあるのを気づかずに作業しますと非常に危険です。
- 作業前には人のいない方向にサンディングディスクを向け、必ず試運転を行なって異常がないことを確認してください。
- 試運転時間は、その日の作業始めのときおよびサンディングディスク交換のとき1分間以上行ってください。

8

スイッチを入れて、材料にサンディングディスクをあてる

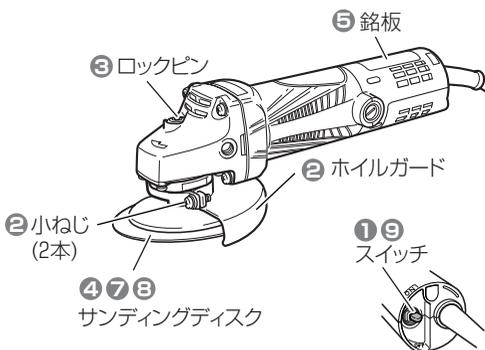
- サンディングディスクの全面を材料にあてないで、下図のように機体を $15^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 傾けて、サンディングディスクの外周部で研削してください。



9

作業を終了する

- 使用後はスイッチを切って、サンディングディスクの回転が止まってから機体を置いてください。回転が止まらぬうちに切粉やごみの多い場所に置きますと、切粉やごみを吸い込むことがあります。機体の故障や事故の原因となります。



保守・点検

警告

点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●取付ねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締直してください。ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります

●お手入れする

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●モーター部の取扱について

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線に傷、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

注 モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。50時間ぐらい使用したら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。ごみやほこりの排出に効果があります。

●作業後の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

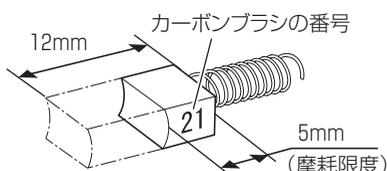
- 注**
- ・お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - ・軒先など雨がかったり、湿気のある場所には保管しない。
 - ・温度が急変する場所には保管しない。
 - ・直射日光の当たる場所には保管しない。
 - ・引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さか摩耗限度(5mmぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシチューブ内で自由にすべるようにしてください。

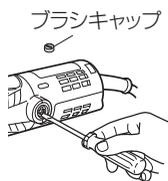
注 新品と交換の際は、必ず図示の番号(21)の日立カーボンブラシを使用してください。



●カーボンブラシの交換方法

1 古いカーボンブラシを 取出す

- マイナスドライバーなどでブラシキャップをはずして、古いカーボンブラシを取出します。

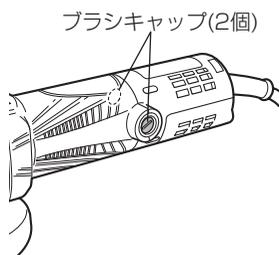
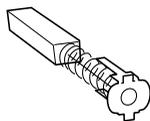


3 ブラシキャップを取付ける

- ブラシキャップでカーボンブラシを押さえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

2 新しいカーボンブラシを 取付ける

- ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。



ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご購入の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(NO.)
販売店 (TEL)		

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

- 北海道支店 TEL (011) 896-1740(代) 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
- 東北支店 TEL (022) 288-8676(代) 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
- 関東支店 TEL (03) 5783-0608(代) 〒108-6020 港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
- 中部支店 TEL (052) 533-0231(代) 〒451-0051 名古屋市中区則武新町1丁目32番16号
- 北陸支店 TEL (076) 263-4311(代) 〒920-0058 金沢市示野中町1丁目163番
- 関西支店 TEL (0798) 37-2665(代) 〒663-8243 西宮市津門大筋町10番20号
- 中国支店 TEL (082) 504-8282(代) 〒730-0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
- 四国支店 TEL (087) 863-6761(代) 〒760-0078 高松市今里町1丁目28番14号
- 九州支店 TEL (092) 621-5772(代) 〒813-0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」 ☎ 0120-208822 (フリーダイヤル・無料)
※携帯電話からはご利用になれません。 (土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)
電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
国内営業本部 TEL (03) 5783-0626(代)